



三又



比賣濫卷之三

述言第三

冊巻よは婦人の事よき事な道よのぶすかららま  
明倫の史婦れ別らあしこまなり

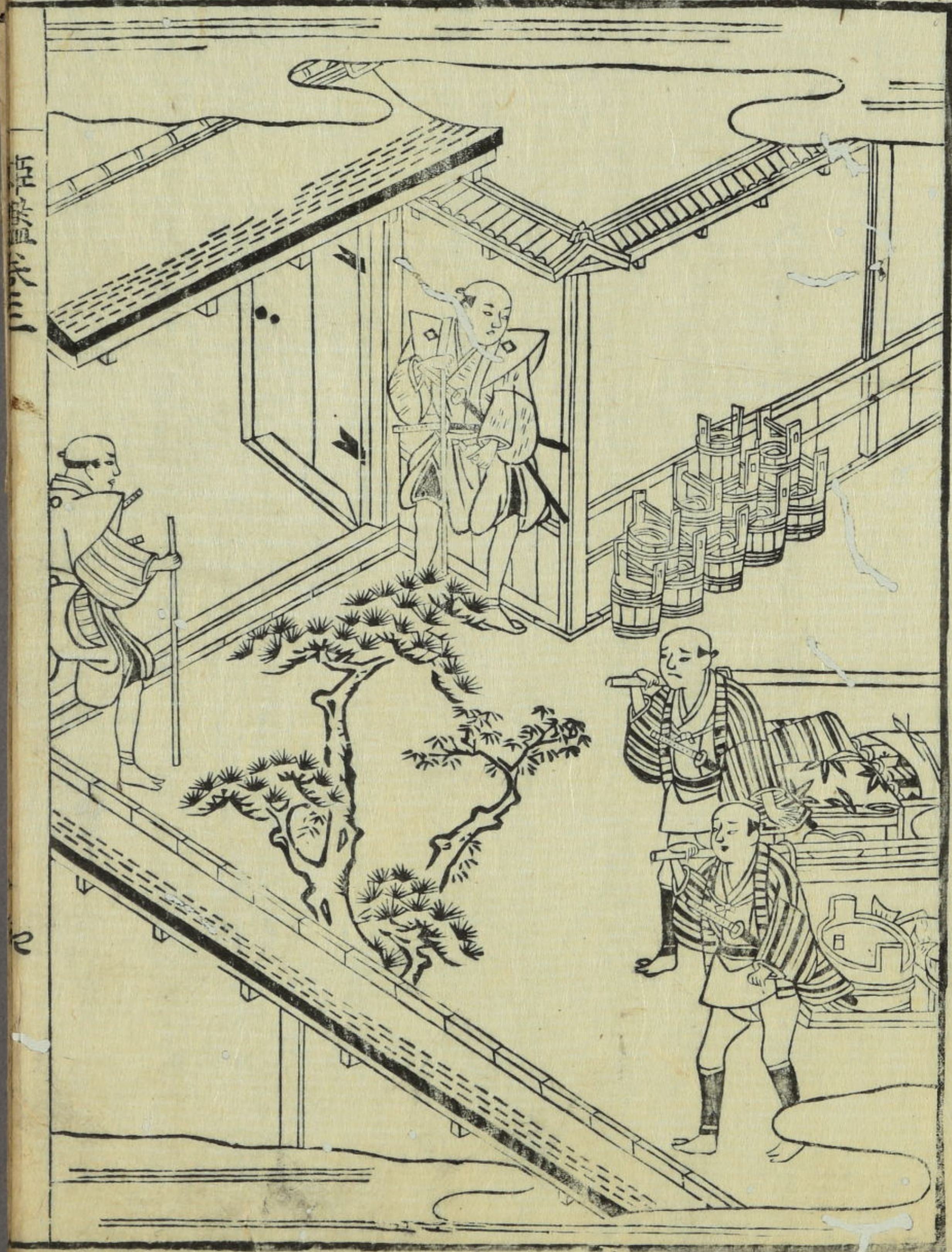
あえつちあひやうとて百の物あひつてねと女あひまら  
ひいあひいあひいあひいあひいあひいあひいあひいあひい  
らこれ化すよとゆまひそのとらりよあつりあひいあひいあひい  
井母そのあつらひいあひいあひいあひいあひいあひいあひい  
しより日月文約れ神くまもせ給ひ地神の代より  
はつこそのまゝ人てなりとれまも濫湯りのひいあひい

比賣濫卷之三

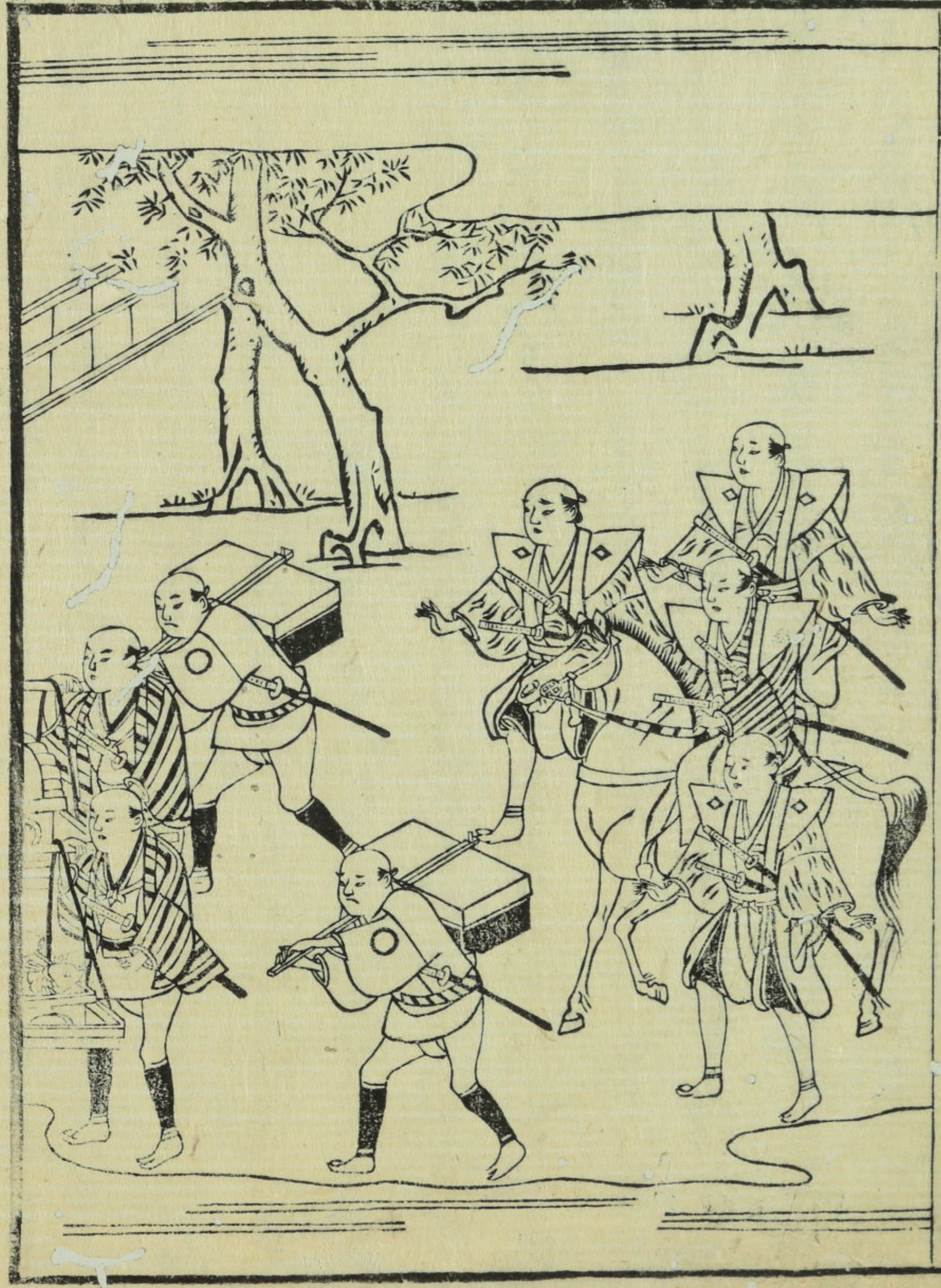
どもつらに揚るり輝きて清きさるるさしはなま  
 まり陽のいほひあつとくまをくくくくくくく  
 まい隠れなきあつとくまをくくくくくくく  
 しもつらにの地はあつとくまをくくくくくく  
 うあつとくの地はあつとくまをくくくくくく  
 よるるいせはあつとくまをくくくくくく  
 あつとくあつとくの地はあつとくまをくくく  
 あくつとくあつとくの地はあつとくまをくく  
 だつとくあつとくの地はあつとくまをくく  
 まつとくあつとくの地はあつとくまをくく

ろくあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 まゆあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 廣くあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 ろくあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 そのあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 まゆあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 廣くあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 ろくあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 そのあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 まゆあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 廣くあつとくあつとくの地はあつとくまをく  
 ろくあつとくあつとくの地はあつとくまをく





高野山



如鏡卷三

先程の節よりなほ使よりいふにわが國よりいふに  
 月日よまじいしほく嫁氏をいふにその國の國をよまじ  
 のよまじ酒念とよまじ親類侍事なる人甲令とよまじ  
 しいとよまじりつて親類とよまじいも女の親類といふの  
 りよまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を  
 秋の節よりいふに酒念の節よりいふにわが國の國を  
 月日よまじいしほく嫁氏をいふにその國の國をよまじ  
 のよまじ酒念とよまじ親類侍事なる人甲令とよまじ  
 しいとよまじりつて親類とよまじいも女の親類といふの  
 りよまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を  
 秋の節よりいふに酒念の節よりいふにわが國の國を  
 月日よまじいしほく嫁氏をいふにその國の國をよまじ  
 のよまじ酒念とよまじ親類侍事なる人甲令とよまじ  
 しいとよまじりつて親類とよまじいも女の親類といふの  
 りよまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を

礼記よりいふに聘するをよまじいふにわが國の國をよまじ  
 を聘のよまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を  
 とのよまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を  
 ぶとよまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を  
 よまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を  
 めるよまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を  
 とよまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を  
 ろよまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を  
 政とよまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を  
 よまじいふにわが國の國をよまじいふにわが國の國を

礼記よりく礼は夫婦とほしむは始るとも也物ごの礼儀  
 右に聖人<sup>よ</sup>世の人<sup>ん</sup>の<sup>ん</sup>とても<sup>さ</sup>ご<sup>と</sup>物<sup>を</sup>さ<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>ん<sup>の</sup>を<sup>さ</sup>  
 ちくごそとをさふ事なしは夫婦男女の中とつとてな  
 れわごとを礼儀の<sup>ん</sup>ご<sup>ん</sup>す<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>男<sup>に</sup>女<sup>に</sup>ら<sup>ち</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>時</sup>  
 ちあ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>  
 ぶら<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>の中<sup>に</sup>れ<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>ひ<sup>ん</sup>す<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>  
 又<sup>も</sup>の<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>お<sup>れ</sup>人<sup>の</sup>を<sup>さ</sup>ん<sup>ご</sup>と<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 ち<sup>か</sup>ら<sup>ん</sup>の<sup>お</sup>も<sup>て</sup>ん<sup>の</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>

礼記のまじりのごごも夫婦男女ごごごごごご  
 のごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご  
 ち<sup>か</sup>ら<sup>ん</sup>の<sup>お</sup>も<sup>て</sup>ん<sup>の</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>お<sup>も</sup>て<sup>ん</sup>ご<sup>と</sup>は<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>



いしよあり再渡如女わがのむらつのむらつなりはか服うかの  
 属あつ小切せうせつよりよりまんとてぶとつりか属あつへ母はは姑おば背せの  
 ゆりよむ小切せうせつの服うかの若わ外戚がうせきの化か姓せうなりごと母ははのあは  
 りよと成婦なりぬめのむらつのむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 小切せうせつのむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 のむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 て小切せうせつのむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 とむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 なるきとむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 父母ふぼのむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか

かむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 色いろなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 なるきとむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか

祚まはら代よのすまゝなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 るやむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 持もちきよむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 かりしむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 とんとのむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 ゆりよむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか  
 しむらつなりはか服うかのむらつなりはか服うか

ひくはよ指がひくはひくはまひ指一のるは本鏡用那

中戸の大山猿神の御明神なりとぞいひける

毛のさへく指のさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

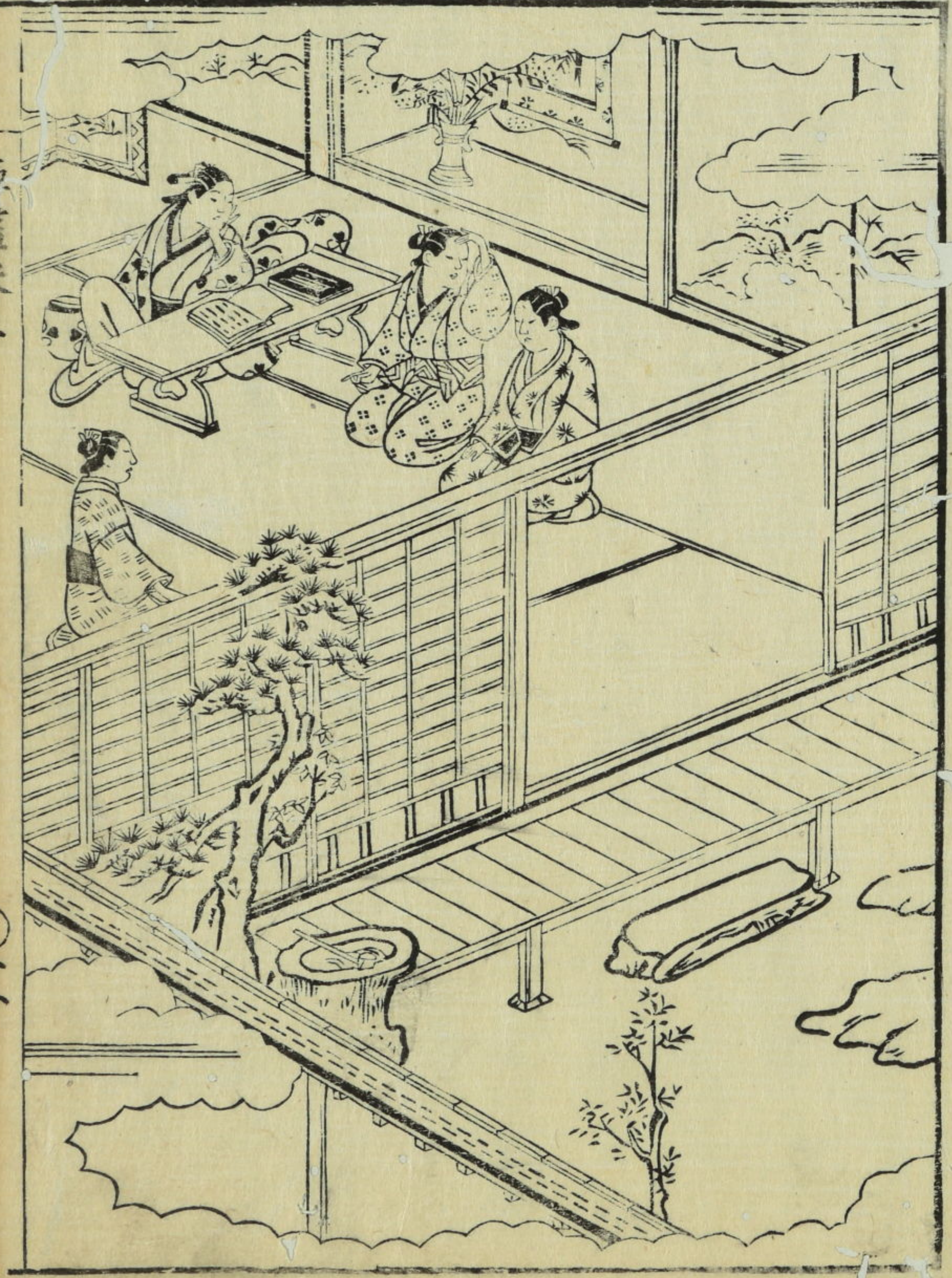
さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく

さへくさへくさへくさへくさへくさへくさへく





ねり物なり又衣振のゆきよき家よもへん花よかじり物  
 とまらうけしきものうらよこねど梅のうらその花よとくしき  
 の物とちしきれ事なぐりかろ梅順のなごもそかこりては  
 ちよのちよらしきちよまうりくけまうぐろかろ梅一し  
 又周男よとくちよあや中よありて候とて候い合とそま  
 る言なりたかゆゆもつらうらとくちよあやたかゆよわん合の  
 とそまあや物とそなりもゆあもや梅合れらうらつりあ  
 た梅合のゆりんととらうらわとなり又盃母のこくはと梅人の  
 れいよ後とては梅合とあひい衣裳とあふりこくありあ後と  
 ついよありのちよあやと梅合とつりてすとありあやめつりあ



とちひといふ人よそとまうつらゆきまじく人の子がまゐり酒  
食とまゐる衣服とまじり美儀とまゐるひかりのゆきまじりかたれを  
うづめとまゐるたと細なとまゐるいづれもいづれもいづれもいづれも  
礼記よとく七年より男女席を同一くいふ食とまゐるやと  
とら男女七人のうちより多くいづれもいづれもいづれもいづれも  
物とく食せと又魏の荀爽が女誡よ七果の男にあらんとて  
ふび七果のむとあらからむとたのむとあり又明の鄭氏が女誡  
よ八の年よりむすめいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
りり礼記よといふと夫婦の礼也七十なるひく同く同く同く同く  
ていふといふと七十のほよの男かとりあつるよといふといふと

とてそのくかりありとなり

夫婦男女ともいふと礼記よそのまゝいふはいふものつらと  
まゐるのいふとまゐる男のいふとありありとありありとありありと  
とありありとありありとありありとありありとありありとありありと  
て女のいふとまゐる女もいふとありありとありありとありありと  
いふと夫婦ありとありありとありありとありありとありありとありありと  
かゝるものいふとありありとありありとありありとありありとありありと  
かゝるものいふとありありとありありとありありとありありとありありと  
ありありとありありとありありとありありとありありとありありとありありと  
ありありとありありとありありとありありとありありとありありとありありと

していひおのづから書かじりりりりひさしとておのづから  
 せがむへおのづからいふにいひしめておのづからいふに  
 く又あつちと男とておのづからいひしめておのづからいふに  
 といふにいふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに  
 といひしめておのづからいふにいふにいふにいふにいふに  
 礼記よりおのづからいふにいふにいふにいふにいふに  
 いふにいふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに  
 婿とていふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに  
 といひしめておのづからいふにいふにいふにいふにいふに  
 ていひしめておのづからいふにいふにいふにいふにいふに

かしこもいふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに  
 鄭氏云く、（いふに）いふにいふにいふにいふにいふに  
 方よしといふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに  
 といふにいふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに  
 ていひしめておのづからいふにいふにいふにいふにいふに  
 といひしめておのづからいふにいふにいふにいふにいふに  
 縁者（いふに）のいふにいふにいふにいふにいふにいふに  
 あつちと男とておのづからいふにいふにいふにいふに  
 といひしめておのづからいふにいふにいふにいふにいふに  
 といひしめておのづからいふにいふにいふにいふにいふに

蘇武家範の事... 蘇武の妻の事... 蘇武の事... 蘇武の妻の事... 蘇武の事... 蘇武の妻の事... 蘇武の事... 蘇武の妻の事... 蘇武の事... 蘇武の妻の事...

蘇武の事... 蘇武の妻の事... 蘇武の事... 蘇武の妻の事... 蘇武の事... 蘇武の妻の事... 蘇武の事... 蘇武の妻の事... 蘇武の事... 蘇武の妻の事...

蘇武家範

十三



あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに  
くゝ厥港ケルポートなる所のつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに  
あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに  
てなまのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに  
くゝ厥港ケルポートなる所のつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに  
あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに  
なまのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

まのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに  
なまのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに  
なまのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに

あつちのつちをいふにわづらひしけりてのちりりあつちのつちをいふに



夫木也木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上

夫木也木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上  
 夫木之有根也根在土中木之有葉也葉在木上

か衛えいはあつ川の志をかり女まつび人の志よゆへにけりしを  
 かへしよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 泉源せんげん深ふかみまのみにびるよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 かりつらふに志あきらめ度の主人おとこなり母ありけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 ありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 家いえ範はんよとありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 周しゅう易ぎよとありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 ありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 まりよとありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを

んをけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを  
 りありけりしをいひしりよとせむらうにけりしをいひしりよとせむらうにけりしを

ふゆへのたよきとていふなりけり昔のころはくちや心の大  
あふよふかきかたのころよりてなりたれど夏の雲山殿乃  
有孝氏周のそねつとをも賢女とてゆしくさむらふすら  
ふ内のまつりごとのいふもあまひのほめとひかあり  
あひらぶとのいふもいふ世はけいふを流るる世のすま  
りもえよむがとむもいふいふ人かのみつりいふいふ  
あふりくは百家のいふれ世も妹をよりくむぶまふ百家の  
の殿乃世も世にふりてかろび八百零年の月の世も雲山殿  
よりく中たえたる昔のころいふいふいふいふ  
雲山殿よりく北鶴のあしたするゆい北鶴はあしたするゆい

りけいふなりと北鶴のあしたするゆい  
したとつていふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
ゆいあふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
さあふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
まふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
氏家訓のいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
まつりごとのいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
又あふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
あふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
昔のころいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ





心がきりぎりすの如くして心なき人にも心なき人にも  
らふれん御言は御言は御言は御言は御言は御言は御言は  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも



心がきりぎりすの如くして心なき人にも心なき人にも  
らふれん御言は御言は御言は御言は御言は御言は御言は  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも  
うたよたよた心なき人にも心なき人にも心なき人にも





後  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

ぬら別友のたかりとてまぢやいものたかりのたかりあつて  
あつていふよそのたかりとてまぢやいものたかり

比賣體卷第二

比賣體卷第二

迷言第廿 けまの申とのまゝいらずななり

儀禮乃信よまま妻と一神なり又ま妻は伴合なりとのりま  
妻れらごりの伴やいとのり合せし一神とすなりなまは  
なり礼記の文よてびいもいしすもいもあつていもあつて  
あつたあびりらごりよまま妻と一神なりとのり合せし  
の字とあつてあつて合すとのり合せしとまぢあひのり合せしなり  
色とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
てあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

いひはしめしむる御座り申すに申すに申すに  
おのれはかたがたに申すに申すに申すに  
らしむる御座り申すに申すに申すに

礼記よ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、

いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、  
いへぬ、いへぬ、いへぬ、いへぬ、

いびりしつゝしつゝいびりしつゝいびりしつゝ  
又儀れはつらまゝの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま

いびりしつゝしつゝいびりしつゝいびりしつゝ  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま  
あつらひの妻のつらなりとあり白虎通よるま





とらひけるも命のわひぬるがむらびとあらて又が  
 りふらぶに津井そのらび一よあざとてたけり<sup>つらね</sup>とび  
 して母よをどのわびもらつゝいたかまぬ<sup>て</sup>神よとさるも妻の  
 えとてぬるわらゆむとてきざりていかに<sup>て</sup>命のいひ  
 やりてゆ<sup>て</sup>まぬのほぐ<sup>て</sup>天の命するあて人のきざらぬ  
 らびとさるけり<sup>て</sup>なをさし<sup>て</sup>いふ<sup>て</sup>お<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>いふ<sup>て</sup>むらび  
 史記<sup>を</sup>女らるるびと妻縁な<sup>て</sup>とてしと要するに<sup>て</sup>貞お<sup>て</sup>  
 るり女のあそ<sup>て</sup>種姓<sup>を</sup>た<sup>て</sup>る<sup>て</sup>の<sup>て</sup>と<sup>て</sup>な<sup>て</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>て</sup>と<sup>て</sup>け<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>ぬ  
 とするさ<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>た<sup>て</sup>る<sup>て</sup>貞<sup>を</sup>ぬ<sup>て</sup>あ<sup>て</sup>る<sup>て</sup>ぞ<sup>て</sup>な<sup>て</sup>む<sup>て</sup>な<sup>て</sup>う<sup>て</sup>や<sup>て</sup>け<sup>て</sup>た<sup>て</sup>ぬ  
 ともお<sup>て</sup>一<sup>て</sup>重<sup>を</sup>務<sup>を</sup>中<sup>を</sup>お<sup>て</sup>の<sup>て</sup>妻<sup>を</sup>大<sup>を</sup>約<sup>を</sup>も<sup>を</sup>典<sup>を</sup>伝<sup>を</sup>女<sup>を</sup>の<sup>て</sup>妻<sup>を</sup>と<sup>て</sup>け<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>お<sup>て</sup>あ<sup>て</sup>

ましいありとも色<sup>を</sup>す<sup>て</sup>ま<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>ま<sup>て</sup>の<sup>て</sup>と<sup>て</sup>あ<sup>て</sup>つ<sup>て</sup>した<sup>て</sup>た<sup>て</sup>る<sup>て</sup>位<sup>を</sup>ま<sup>を</sup>  
 人のよろづりなる<sup>て</sup>わ<sup>て</sup>く<sup>て</sup>も<sup>て</sup>貞<sup>を</sup>む<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>つ<sup>て</sup>つ<sup>て</sup>ふ<sup>て</sup>な<sup>て</sup>く<sup>て</sup>あ<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>  
 毎<sup>を</sup>う<sup>て</sup>び<sup>を</sup>ら<sup>て</sup>つ<sup>て</sup>け<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>なり<sup>て</sup>又<sup>を</sup>は<sup>て</sup>た<sup>て</sup>園<sup>を</sup>院<sup>を</sup>の<sup>て</sup>母<sup>を</sup>人<sup>を</sup>あ<sup>て</sup>改<sup>を</sup>門<sup>を</sup>院<sup>を</sup>  
 りあ<sup>て</sup>ひ<sup>を</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>な<sup>て</sup>ど<sup>て</sup>む<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>ひ<sup>を</sup>と<sup>て</sup>あ<sup>て</sup>る<sup>て</sup>お<sup>て</sup>た<sup>て</sup>は<sup>て</sup>れ<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>  
 く<sup>て</sup>よ<sup>て</sup>し<sup>て</sup>む<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>い<sup>て</sup>お<sup>て</sup>ん<sup>を</sup>か<sup>を</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>お<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>  
 かな<sup>を</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>お<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>く<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>  
 くら<sup>を</sup>げ<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>  
 なり<sup>て</sup>と<sup>て</sup>せ<sup>を</sup>の<sup>て</sup>お<sup>て</sup>は<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>く<sup>て</sup>あ<sup>て</sup>よ<sup>を</sup>あ<sup>て</sup>り<sup>て</sup>ぐ<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>  
 じ<sup>を</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>お<sup>て</sup>よ<sup>を</sup>秋<sup>を</sup>胡<sup>を</sup>お<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>あ<sup>て</sup>の<sup>て</sup>妻<sup>を</sup>と<sup>て</sup>け<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>ぬ<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>  
 よ<sup>を</sup>あ<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>秋<sup>を</sup>胡<sup>を</sup>の<sup>て</sup>あ<sup>て</sup>よ<sup>を</sup>あ<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>い<sup>て</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>て</sup>





玉燭のよみのほかにあはれなりびひのほかにあはれなり  
 なつていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 りびとて自家をいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 はくど貞烈のちか二人れまよふく娘ぢび貞女あまふ  
 まよふくいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 云いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 そのいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 うあつていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 れいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 おいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

りづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 られたのいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 事とらうかなりいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 おもつて幸のいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 おもももいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 又女貞といふもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 せうと貞女いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 ぞとていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも  
 せいもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも



ぢりあざろ若幼なりび付事とすていあそそありとすうらん  
のこふ若なり生死のこふのこふのこふのこふのこふのこふ  
はうふさふかろべー

ふ夏乃いとも死生命あり富貴天より人の男生死う  
ふ所の富貴貴賤の天より命ずるなり天のひかりて人の  
ちうこふびたれどあづつーいんはいとをうーいふのちをう  
しわひたれどいふ業とほめびーて貴族よあづびひれ命や  
てい命よあびれいむがいのち命はあふてまねること  
とふれ天の命なりつものいふがむあふんて世の女  
いふかりよーい人のいふいふいふいふいふいふいふいふ

まがらうをみくはうーあがらうあうのこをび男の業とほと  
あふ世のせむいふやえれどいふーいふらうかかろや  
あふらうもまたあふらかりよひれとれいあふ  
て命よあふらう貴族よあふらういふもえとてぬたういふ  
いふがうーいふあふゆとていふいふいふいふいふいふ  
富貴とふがらびて貴族よあひうあふらう貴族はあひい  
てあふいのこをうーいふたあふいふ

いふ(あふらうあふ)のこふく溜水よけりてあふいふ  
たそそのいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
かあふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ



がくしひにてもわくしんぞとておひつらりかみしんせう  
 ねとておひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 とおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 わげらたてんとておひつらりかみしんぞとておひつらり  
 こしつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 とおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう

せうおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう  
 んおひつらりかみしんぞとておひつらりかみしんせう

かたがはらよとせばはるまひのわらわにまじりて  
うくらりてなほはるまひのわらわにまじりて  
なほはるまひのわらわにまじりて  
はるまひのわらわにまじりて  
はるまひ

かたがはらよとせばはるまひのわらわにまじりて  
うくらりてなほはるまひのわらわにまじりて  
なほはるまひのわらわにまじりて  
はるまひのわらわにまじりて  
はるまひ  
なほはるまひのわらわにまじりて  
うくらりてなほはるまひのわらわにまじりて  
なほはるまひのわらわにまじりて  
はるまひのわらわにまじりて  
はるまひ

かたがはらよとせばはるまひのわらわにまじりて  
うくらりてなほはるまひのわらわにまじりて  
なほはるまひのわらわにまじりて  
はるまひのわらわにまじりて  
はるまひ  
なほはるまひのわらわにまじりて  
うくらりてなほはるまひのわらわにまじりて  
なほはるまひのわらわにまじりて  
はるまひのわらわにまじりて  
はるまひ  
なほはるまひのわらわにまじりて  
うくらりてなほはるまひのわらわにまじりて  
なほはるまひのわらわにまじりて  
はるまひのわらわにまじりて  
はるまひ

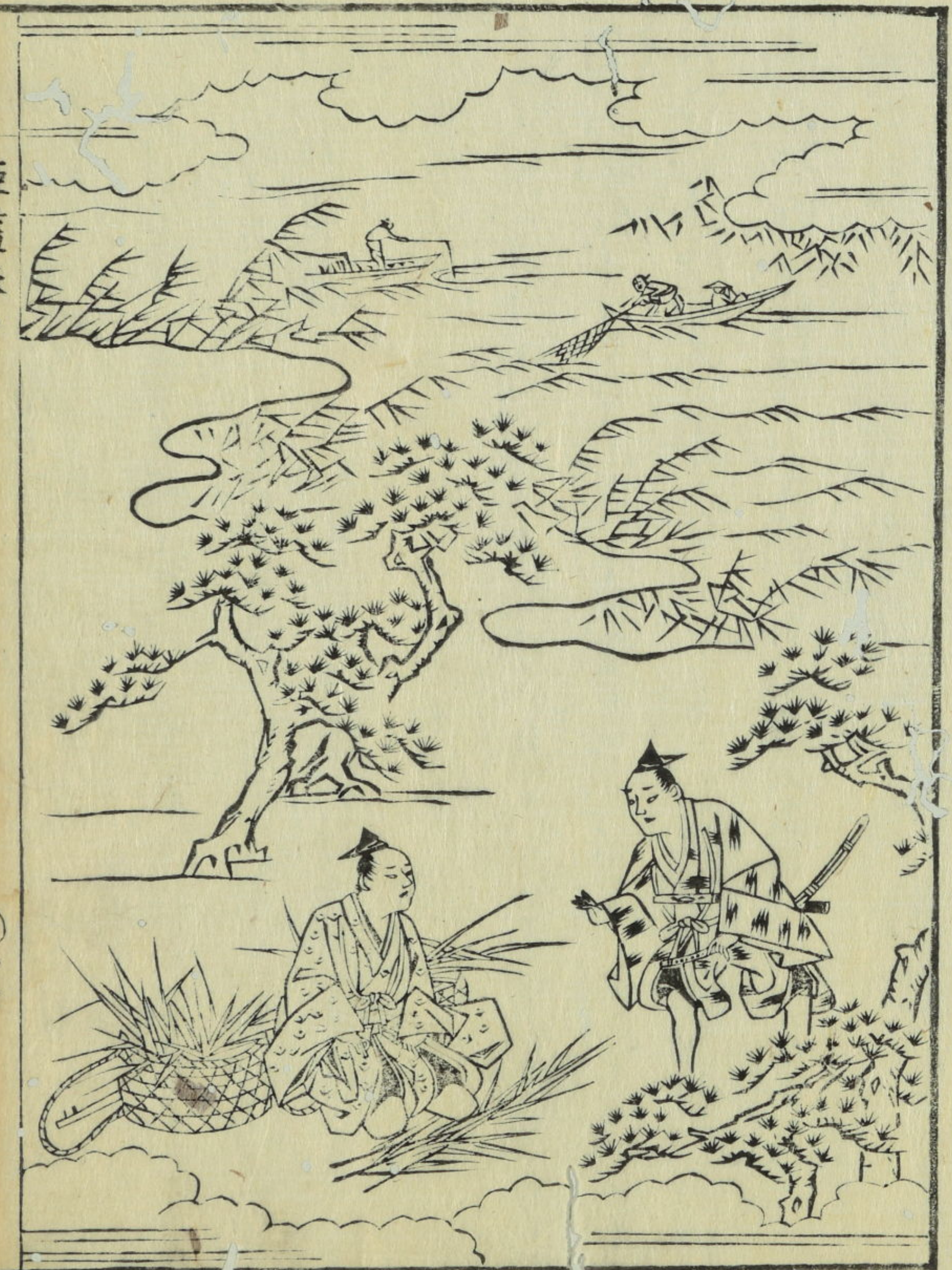






Handwritten text in a cursive style, possibly a letter or a record, with several lines of characters.

Handwritten text in a cursive style, possibly a letter or a record, with several lines of characters.





もみけつすれぬめいとうのふかたをうらみけり  
らひかたをうらみけりともおぼふたうとていふ  
人の命もあつたころにふすまをうらみけり  
らひかたをうらみけりともおぼふたうとていふ  
ゆつたころにうらみ

もつよいころにうらみけり中らうのうらみけり  
らびとていふころにうらみけり我儀よとていふ  
しやそのあつたころにうらみけり海のうらみけり  
ころにうらみけりともおぼふたうとていふ  
なりとていふころにうらみけりともおぼふたうとていふ

とらにのころにうらみけりともおぼふたうとていふ  
おまといあり我儀よとていふころにうらみけり  
そとにうらみけりともおぼふたうとていふ  
ひらりたてにうらみけりともおぼふたうとていふ  
しやそのあつたころにうらみけりともおぼふたうとていふ  
らひかたをうらみけりともおぼふたうとていふ  
らひかたをうらみけりともおぼふたうとていふ  
らひかたをうらみけりともおぼふたうとていふ  
らひかたをうらみけりともおぼふたうとていふ  
らひかたをうらみけりともおぼふたうとていふ



Handwritten text in vertical columns, likely a transcription of a classical Chinese text. The script is a cursive style. The text is contained within a rectangular border.

Handwritten text in vertical columns, continuing the transcription. A small square seal is visible near the bottom of the column.

比實溫卷中記







古卷